

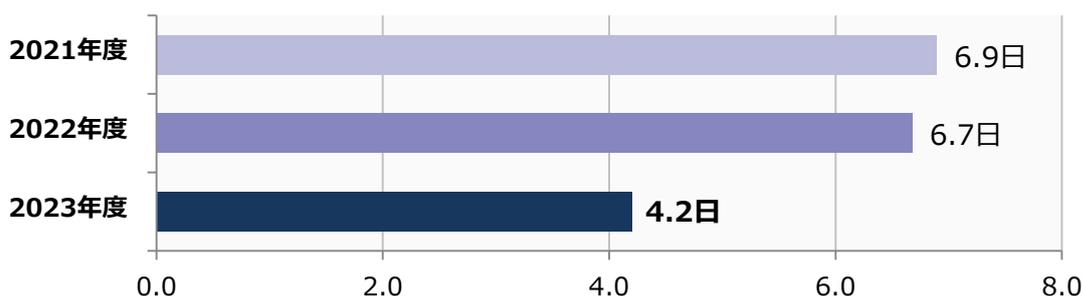
# 人工呼吸器装着患者の平均装着日数

VAP (Ventilator Associated Pneumonia=人工呼吸関連肺炎)は気管挿管・人工呼吸器開始後48時間以降に新たに発生した肺炎であり、気管挿管患者全体の9~24%に起こるとされています。

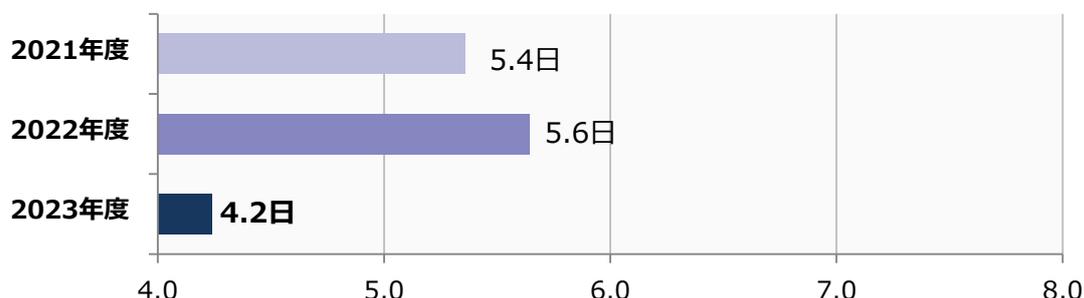
その中でも、気管挿管後5日以降の比較的遅い発症のVAP患者では、多剤耐性菌が起炎菌で予後が悪いとされています。VAPを発症することで、明らかに予後が不良となり、ICU滞在日数も長期化します。VAPの発症リスクを減らすには、早期の呼吸器ウィニング、抜管が望ましいことは言うまでもありません。

当院における人工呼吸器装着日数の平均値を把握し、VAP低減のため1日でも人工呼吸器装着日数を短くすることが、入院日数の短縮・医療費の削減・病床稼働率をあげることに繋がると考えます。2016年度から「救命センターを含む全病棟」と「救命センターのみ」でデータを分けて算出。これにより「救命センター」では急性期でいかに早く人工呼吸器を離脱するかが課題となり、チーム活動につなげることができます。

## 【全病棟】



## 【救命センター】



## 当院値の定義・算出方法

**分子：**人工呼吸器装着の総日数

**分母：**人工呼吸器装着患者総数

分子/分母を月別に計算し、平均を算出した。（※一般・救命含む、気切患者含む、NPPVは除く）

## 改善策について

2022年度と比較し、平均1.4~2.4日人工呼吸器装着日数が短縮しました。（全病棟：-2.4日、救命Cのみ：-1.4日）

2022年6月~ゼロシステムを用いて算出しており、昨年度との比較は同条件下であると言えます。

一般病棟・救命センターともに、人工呼吸器離脱を特定行為看護師が担うケースが増えていること、覚醒試験/離脱試験に対するスタッフの意識が高まってきている事も要因の一つかと考えます。

一方で、ベッドサイドに呼吸器を取り置いている日数等も含まれており、より正確な人工呼吸器装着日数を算出するには現状の方法では限界があり、再検討が必要です。

文責：RST(Respiratory support team : 呼吸療法チーム)委員長  
龍神 香好